

嶋満神社便り

平成二十九年十一月号(第二十四号)

発行 嶋満神社奉賛会

おみくじは如何でしたか・・・？
本年度の例祭無事終了

去る八月二十日(日)、当嶋満神社の例祭が、恒例「浮島の夏祭り」ともに行われ、吉坂の岩室稲荷社、森本宮司様の手により厳かに執り行われ、無事終了いたしました。前日準備、当日と奉賛会員の皆様のご協力、さらにはたくさんのお供えを頂き、ありがとうございました。

今年度は昨年の参拝者減少を受け、町内会様とも相談のうえ、山上にて「おみくじ入り福餅」を授与させていただきましたところ、昨年をはるかに上回る町内会員様においでいただき、大層な賑わいとなりました。

お餅については何分初めての企画で、皆様の評判が気にかかるどころです。ご意見がございましたら遠慮なくお申し出ください。来年以降の参考にさせていただきます。と思います。



(祭礼風景)

江戸時代の治安維持に一役、陰陽師や祇園社の神灯目付け役(お火役)の活躍

神社の奉賛会のお役をさせていただいているせいか、図書館で小説を探しても神道に題材をとった読み物がつい、目につきます。

そんな中で最近私が好んで読むのが澤田ふじ子さんの「陰陽事件簿」「祇園社神灯事件簿」の両シリーズです。

いずれも江戸時代の京都が舞台ですが、前者は土

御門家(つちみかどけ)の陰陽師とその配下で辻々に高台子を出して営業する八卦見(占い師)が主役、後者は祇園社(現在の八坂神社)の神灯目付け役：：境内各社の灯籠などの灯を見回る下級神職：：が主役で、京の町の治安を守るお話です。

前者では、幕府公認の陰陽師や占い師たちが一般庶民の相談に乗り、困りごとを解決することで、後者では神仏習合の時代、今の何倍もある広大な祇園社の社域の見回りを通じて神職が庶民に寄り添い、人情味あふれる解決方法で犯罪を未然に防ぎ、いずれも町奉行所の同心たちだけでは手の回りきららない部分を補って、治安維持に一役買います。

作者の古美術や文化財に対する深い造詣も作品に幅と格を持たせています。

ところで当時の祇園社の表参道は南楼門から清水へ伸びる道でありこちらが正門、鴨川から東の四条通りは巾三間、南座などの芝居小屋が竹藪や畑の中に点在する祇園村の中、四条の鴨川には幕末まで中州を利用した流れ橋があったにすぎません。そんな情景も「祇園社シリーズ」には随所に織り込まれ、「ブラタモリ」でも言わないことをこの本は教えてくれて、たいそう勉強になります。



(八坂神社南楼門)

両シリーズとも当時の京都の庶民の暮らしの様子、通りや町名の由来も効果的に差し入れられていて、京都を知っているつもり京都人でも教えられることが多いです。

様々なトリビアを背景としながら二つのシリーズは人間模様を描いていきます。一卷に数話ずつの短編集ですから、割と読みやすいのも魅力ですよ。では本日はこの辺で失礼します。

総会・懇親会は 十一月二十八日(火)です。

【別紙ご案内】是非ご出席ください！